

日付:2014年11月16日／聖書:イザヤ書56:1～8

主題:「呼び集められた群」

「戦争と平和」についてはどんな時代の人間にとっても本気で考え、真の幸福を追求しなければなりません。主イエスはマタイ福音書 5 章 9 節で「平和を実現する人々は幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる」と教えられました。

イスラエルの民は戦争によって敗戦の民となりバビロニアへ連行され、望みもしない異国での生活を 50 年も過ごさねばならず、人々の心は乱れ、神に対する信仰も揺れ動かされる程でした。そのような時、神の救いのみ声が預言者イザヤを通してイスラエルの人々に告げ知らされたのです。

「さあ還るべきところにみんな還ろう…」と、ところが還るべき祖国は戦争のために街も神殿も壊されて昔の面影はなく自分たちの手で復旧しなければならないのです。バビロニアからの帰還の民の中にいる異邦人たちのことが預言者の耳に思いがけない声として聞こえる程でした。「彼らは神に選ばれた者ではない」「彼らは神の都に住む資格はない…」と。

でも神の言葉は違います。「わたしのもとに集まって来た人たちはみんな私の名を呼ぶ人たちである」「わたしの家はすべての人たちの祈りの家である…」祈りの家に住むのに差別はない、だから迷うことなくわたしのもとに集まるように…と呼びかけられるのです。みんなで力を合わせて神の都を建て上げるのです。

預言者が特に注目したのは再建されるであろう「神殿」においてどのような思いで礼拝をささげるのかという事でした。私たちの教会は神が求められる「すべての民」を快く迎える群れとなっているのでしょうか。神はすべての民を呼び集められるお方です。私たちは神によって「呼び集められた群」なのです。教会は、ギリシャ語で「エクレーシア」と言い「召し集められた群れ」という意味です。(城間)